

令和5年度第2回川崎市社会教育委員会議
青少年教育施設専門部会 摘録

- 1 日時 令和6年2月7日(水) 10時00分～12時00分
- 2 場所 川崎市子ども夢パーク
- 3 出席者
 - (1) 委員 番匠委員、中井川委員、松田委員、境委員、山川委員
元木委員、原田委員
 - (2) 事務局 教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課 柿森課長
子ども未来局青少年支援室 柳原課長、上原係長
佐藤課長、志水係長
 - (3) 施設 川崎市青少年の家 佐藤所長、齋藤副所長
川崎市八ヶ岳少年自然の家 名取所長、三井副所長
川崎市黒川青少年野外活動センター 野口所長
川崎市子ども夢パーク 友兼所長、千葉副所長
- 4 議事
 - (1) 令和5年度の事業計画の進捗状況について
 - (2) 令和6年度の事業計画案について
 - (3) その他
 - (4) 川崎市子ども夢パーク施設見学(希望者のみ)
- 5 資料
 - 資料1 青少年教育施設専門部会委員名簿
 - 資料2 川崎市社会教育委員会議規則
 - 資料3 青少年教育施設の概要について
 - 資料4 青少年の家 令和5年度事業進捗状況・令和6年度事業計画案
 - 資料5 子ども夢パーク 令和5年度事業進捗状況・令和6年度事業計画案
 - 資料6 八ヶ岳少年自然の家 令和5年度事業進捗状況・令和6年度事業計画案
 - 資料7 黒川青少年野外活動センター 令和5年度事業進捗状況・令和6年度事業計画案

6 議事内容

●こども未来局青少年支援室子どもの権利担当課長挨拶

(佐藤課長)

今日は委員の皆様におかれましては大変お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。青少年教育施設専門部会は市民のみなさん、社会教育関係団体、学識経験者、学校関係者の皆様に委員をお願いし、社会教育施設の中でも青少年教育施設のおける各種事業の企画・実施等について、調査、審議していただくことが必要になってございます。当市の青少年教育施設におきましては、子ども若者を取り巻く環境の変化も踏まえ、運営いただいているところでございますが、来年度におきまして、社会福祉施設としてさらに充実した取り組みになりますよう、本日各施設の皆様からのご報告をもとに、委員の皆様の知見から、様々なご意見が伺えると幸いです。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

●議題(1) 令和5年度の事業計画の進捗状況、議題(2) 令和6年度の事業計画案について

(番匠副部長)

それでは、お手元の次第に沿って議事を進めます。早速ですが、議事の(1)「議事1 令和5年度の事業計画の進捗状況」と「(2) 令和6年度の事業計画案」について、指定管理者から10分程度で説明をお願いします。

なお、各施設からの報告の後、報告内容に関する質疑の時間を5分程度設けます。報告内容に関する質問があれば、この時をお願いします。報告内容以外の御質問に関しては議事(2) その他で改めて自由に質疑応答の時間を設けますので、そこをお願いします。それでは青少年の家、佐藤所長をお願いします。

○川崎市青少年の家

(佐藤所長)

4ページをお願いします。まずは令和5年度の事業計画の進捗状況です。利用者数について記載していますが、まだコロナ前の状況まで復活しておりません。今までコロナの関係でキャンセル等がありましたが、今年度に関してはコロナ理由のキャンセルはなくなってきています。自然的な活動ができるようにお客様にも声がけしています。リピーターの方が多いので、子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウト、そういうところに声をかけています。

主催授業関係に関しては、前回お話ししたことにあまり変わりはなく、親子手打ちうどん教室等の授業が受付後30分ぐらいで満杯になるような状況です。そういう意味では、親子で体験する事業にはニーズがあると感じます。来年度以降回数を増やしていこうと考えています。

幼児向けの事業として、親子リトミックで事業をやっていましたが、参加者がかなり少ないので、来年度は違った事業をやろうと進めています。授業関係に関しては、だいぶ参加者も増えてきているので続けていきたいなと思っています。小学生のチャレンジや手作りにはかなり申込があり、抽選をしないような形で何とかカバーにしていこうという進めています。一般向け事業に関しては、施設の色々な状況を考えると、やれる時間帯が少ないのですが、シニアサポーターズの卓球に関しては、かなりの人数が来ております。卓球台もだいぶ老朽化しているので何とかできればと考えているのが現状です。あと施設設備関係に関しては齋藤副所長に方からご説明させていただいて、あと次年度に向けてお話しします。また、主催事業関係の事業のページに人数を記載しましたので参考にいただければと思います。また、親子スキー教室に関しては、八ヶ岳少年自然の家のみなさんと協力させて頂いて、今年度も30名近くの参加者となり、2泊3日でかなりの子もたちのレベルが上がってきていると感じています。来年度以降もやっていけるといえるのがあればと思います。施設担当の整備に関しては齋藤の方からご説明します。

(齋藤副所長)

施設については安全安心を第一に試みている。夏場はプールサイドの関係で経年劣化が激しくなってきましたので、地下一階のシャワー室のタイルや、プールサイドで剥がれている部分がありましたので、安全面から修理しました。

あと1階の廊下の壁紙等を全面的に貼り換えたのが大きいところとなります。川崎市の受変電設備改修工事（キュービクル更新）をちょうどいまやっていて1週間ちょっと休館して対応しています。

非常用発電機の設備の改修工事、取り替え工事をこの2月から6月に実施する予定です。あと自動制御盤の更新もいま取替中で今月中には完全に更新できると考えています。

(佐藤所長)

次のページで令和6年度の事業予定についてお話しします。前年度から継続する事業として幼児向けのものをやらせていただいています。本施設ですが、プールをできるだけうまく使っていききたいと。親子水遊びとか、そのような形で一般開放が終わって団体の解放が終わった後に、水を1/3ぐらい落として、親子で水遊びができるようなことを計画しながら進めています。プールを使う施設が少なくなってきたので、長くプール利用ができるように、7月の頭～8月一杯まで計画しています。

あと、親子ふれあい動物園をずっと続けていますが、幼児向けでなかなか動物と触れ合う場面が少ないものですから前庭を使用して、川崎市の福田牧場さんと連携させていただいて、福田牧場さんに来ていただいて進めています。今年度も3月に予定しています。

青少年事業系はチャレンジ体験・手作り体験、これは小学生が対象です。低学年・高学年に分けて、チャレンジ体験が高学年(4年生以上)で手作り体験は1年生～3年生という形でやっています。こちらも通年で、また宿泊も入りますので、子どもたちの申し込みはかなり入ります。

星空体験教室は確実にリピーターもついて、毎回継続していますと申し込んでくれる人たちがかなりいます。親子うどん教室は回数を増やしてやってみたいと思っています。

施設の一番のメインであるほのぼのスクールは、小学校中学校の生徒さんが、本施設に4泊5日で宿泊に来ていただいて、学校に通学して施設に戻ってくるというような事業になります。こちらは梶ヶ谷小学校、宮崎台小学校、宮前平中学など、本当にご迷惑かけながら、学校の先生方にも運営委員になっていただいて検討しながら進めています。

今年度も親子スキーやチャレンジ関係は八ヶ岳さんと共催で事業を進めたいと思います。

次のページになります。一般の事業関係で、サーキットエアロとノルディックウォーキングです。新規事業として先ほど、親子リトミックをなくす状況ですね。ベビーマッサージや親子ヨガを考えています。小さいお子さんのお母さん方の悩みも聞ければということで、講師の先生にはそういうお話し、大丈夫ですというようなことをいただいたので、子育ての一番難しいところをケアできればいいのかなと考えています。

一般向け事業として今までピラティスをやっていたのですが、講師の先生の都合が悪くなったので、今後は健康体操的なものを入れていきたい、ピラティスとコンディショニングということで、色々なところでやられている有名な山下みきさんという全国で活躍している方が講師を安くやってくれるとのことなので、来年度入ったら行います。

出前事業として、パラスポーツを今年度もやってきていますが、橘中学、宮内中学など、また支援級のお子さんを通年で指導してきました。あとは梶ヶ谷小学校、宮崎中学校の地域教育会議の中でポッチャを推進。川崎愛児園さんからポッチャを指導してくれということで、川崎市のパラスポーツの推進ということを受けまして、私はスポーツ協会から来ているのでパラスポーツの指導はできますので、また講習会へも参加しまして、年4回パラスポーツのポッチャクラブにボランティアで出ておりまして、教えてもらいながら指導しています。そのような形で来年度も地域に声をかけながらポッチャ・パラスポーツの推進を続けていければと思っています。

あともう一つは、パラアートの事業として、施設に展示場所がありますので、文化財団と協力して、3ヶ月に1回、施設の方たちと絵画等を変えながら進めていきたいと思っています。また来年6年度の工事については斎藤の方から説明させていただきます。

(斎藤副所長)

まだ完全に網羅されてないのですが、廊下の壁のクロス張替えを進めていきたいと思いま

す。あと消防設備の修繕、植栽の剪定を増やしていきます。以上です。

(番匠副部長)

ありがとうございました。以上の説明について質問等ございましたら挙手をお願いいたします。

では私の方から質問したいと思います。最初の進捗状況で利用者の数を見ると、対平成30年度という資料で、これはコロナ前と比較してどこまで戻ったかということですが、日帰りの延べ数が1,654名増加しているということですが、それに対して宿泊は▲5,829ということで、まだコロナ前に戻っていないかと思います。日帰りがコロナ前以上というところですから、コロナによる外出控えというのはもうだいぶ収まっているのかなと思いますが、宿泊がこれだけ少ないということに対して何か理由が考えられますか。

(佐藤所長)

団体数で3、4団体となると、指導者のミーティング場所が確保できない場面もあるので、できるだけ3、4団体で押さえてしまうというふうになっています。そういうミーティング場所をいらないと言われた団体に関しては入ってもらうようにしています。あとはコロナの状況もまだやわらんでない状況で、部屋にゆとりを持たせて部屋数を団体に出しているのが現状です。

来年度は解消できて、一番活動期で入っていただける3月・4月に、会社の研修や大学・高校生の合宿とかに声かけをしていきたいと思っています。

(番匠副部長)

ニーズがないから利用者が少ないのではなく、ニーズはあるがそれだけを収容する対応が、コロナの対応で以前ほど入れられないので、結果的に少なくなっているということですね。

(佐藤所長)

はい、そうです。

(番匠副部長)

とすると来年度はその対応が緩和されるとか、色々なことを踏まえて、来年度の宿泊人数も、コロナ前に戻るだろうと予想されるということでもよろしいでしょうか。

(佐藤所長)

来年度は全面解除して、定員に近づけながら入れていきたいと思っています。

4人部屋には4人、10人部屋には10人という形で検討しながら、団体には声かけ

していきたい。

(番匠副部長)

わかりました。ありがとうございます。あと事業計画についてなんですが、ある程度の数的計画を掲載していただいた方がいいのかなという気がします。これは実施する予定のイベントの名称一覧ということでは計画なのかもしれませんが、本来であれば、今年度の状況分析および改善策その改善策に基づいた事業計画数値目標というのが掲載されているべきかなと思いますので、次回以降お願いしたいと思います。

そして計画の中で気になったことが、パラスポーツの推進ということで非常にいい取り組みかと思えます。パラスポーツですが募集はどういう人を対象にしていますか。

(佐藤所長)

現状ではスポーツ協会とタイアップして、スポーツ協会の方で川崎市さんとやっているキャラバンというのがあって、その中で小学校とか中学校希望があるんですね。その中で対象になっていかない学校も出てくるので、それでうちの方に声がかかり、パラスポーツを対象としているお子さんたちは支援級のお子さんたちで、支援級のお子さんたちに通年を通してやっています。私が中学校出身ということもあるので中学校のお子さんたちに声をかけてというような形が現状です。ただ宮崎中学校区や橘中学校区がうちの施設から近いので、地域教育会議とか、そういうところは私の方から宣伝して、青少年の家のパラスポーツの指導ができますので、声をかけてくださいということで、今年度は宮崎中学の地域教育会議と橘中学校部の青少年指導員の方に指導に行っています。できるだけ声掛けを、あとはチャレンジ体験とか手作りの体験の中で、小学生に施設の中でボッチャを体験してもらっている。

(番匠副部長)

パラスポーツの体験をすることについて、パラスポーツというスポーツを単純に学ぶ楽しみだけではなく、意義としては障害があってもなくても一緒にスポーツが楽しめて競い合って高め合うことができるという経験、体験が非常に重要だと思いますので、募集するときにできれば障害があってもなくても誰でも参加できる、逆に障害があれば支援級の子供たちに、PR がもし弱いところがあれば、可能であれば積極的に PR してもらってそういう子供たちにも参加して一緒に楽しめるような活動にさせていただけると素晴らしいのではないかと思います。ありがとうございます。他に何か質問ございますでしょうか。なければ続いて子ども夢パークから友兼所長説明をお願いしたいと思います。

○川崎市子ども夢パーク

(友兼所長)

資料5を見てください。現在の来場者数、12月末で57,490人です。経年の中にコロナ前の数字を載せそびれてしまったのですが、コロナ前の令和1年は88,000人です。それに比べるとまだ戻ってきてないという言い方がいいのかもしれませんが、日常的にはそれほどコロナの影響を感じることは特段ないのですが、数字上はまだ88,000人というところまではいかず年7万人ぐらいというようなところであります。

イベントで見ますと、今年は夢パーク20周年記念で夢パーク誕生日まつりを、7月に開催しました。例年であれば海の日にゆめパ祭りと言って、水遊び・泥遊びで一日1,800人ぐらいの人が来るのですが、今年は水遊びに加えてステージでコンサートをやったり、子どもたちも演奏したりで、合わせて1,500人程度の来場者がありました。

ここにはまだ載せきれませんが、20周年記念として、その他にも市民と共に色々なミニイベントをやっており、つい先日も人形劇があつたりする中で、1月にはフリースペースえんのOBが、フリースペースえんでフォルクローレ(南米の民族音楽)に出会って、そのままそこにはまり、ボリビアに行き、プロになり、いま日本に帰ってきているのですが、全国ツアーを3人で回ってその合間を縫って、夢パーク20周年に行くよといってきたくれました。ごろりを使って、凱旋コンサートではないんですがそんなことをやったり、2月には映画“ゆめパのじかん”を撮った監督の前作の映画を市民の人がみんなと一緒に見たいと、ここで映画会をやって監督呼んで、何人かで対談をするような企画をしています。20周年ということで市民と共に共同して何か行えないかというのをテーマに今年はやってまいりました。

その他に市民だけでなく、利用者である高校生がずっとライブが止まっていた“KUJIROCK”を去年度の末ぐらいから復活させ、今年も2回やってファンの数も戻ってきたかなというところです。ただ、最近課題だなと思っているのが、スタジオの利用が減っていることです。これはスタジオの使い方、機材云々というより、学校にスタジオ・軽音部ができて、学校で練習できるもことがかなり広がってきていて、夢パークにおけるスタジオ利用というものを今後どのように広げるのか、防音室としてどういうふうに使っていくのか。ただスタジオでバンド練習するのではない使い方今後考えていけたらいいのかということも高校生とも話しています。そういう意味では大きな課題というか、スタジオが2つあるので、片方を何かうまい使い方できないかなんていう話をしています。

その下にこどもゆめ横丁2023とありますが、今年は過去最高の50店舗の子どもの出店があり、スタッフは大体40店舗ぐらいがマックスだと言っていたところを大幅に超えて50店舗になったことで、どうしようということではありましたが、結果的には子どもとスタッフとも相談してやれる人はみんなできると、その代わりちょっと不自由なこともあるかもしれないけど皆で協力してやろうということで、50店舗でやったことが、コロナの中でも1,900人増えてきたという数字になったのかなというように考えています。

その次のページを見ていただくとクリスマスイベント、新春イベントとあります。この辺は例年通りの規模、人数感で進んでいるのではと思っています。コロナ前はクリスマスイベントが 100 人程度、新春イベントが 975 人という数字なので、コロナの影響は大幅にはほぼないんじゃないかなと思っています。

子どもの遊び活動に関わる事業、プレーパーク、スタジオ利用(スタジオは先ほどお話ししました)、プレーパークは日常的に一緒に楽しく子供のやってみたいに沿ってやっているかなと思います。先日の大雪の日、夢パークに子ども何人が来ましたが、ドラム缶でお風呂を沸かして入り、雪の中に飛び込んで整ったと言いながら遊んでいる愛すべき子どもが一杯いました。その時にも子どもたちの間でも夢パークにできたシャワーが非常に好評で、あれがあってよかったと。自分たちで寒い中遊んで寒くなるのは当たり前だろうと思うのですが、その後のシャワーが非常に良かったなという声が出ていました。同時に先日ミーティングでシャワーのコインが半端なく減っているということ確認しました。みんな間違っって持って帰っちゃう。結局使わないで持って帰っちゃうみたいな人が実はたくさんいて、そういう人がいるとは想像していたが、思った以上に多くいて、持って帰らないで返してもらおう工夫ができないかという話をしています。そんなことが夢パークの日常の中では起きていますね。

その次のページを見ていただくと、連携事業の中に子どもたちとか支援会とかありますが、夢パークとしては夢パークを作り続ける会、市民の声、利用者懇談会を毎月開いていて、今の夢パークはどうですかと話をさせていただいているんですが、昔からの課題である自転車が夢パーク中に放置され続け、どれが借りられる自転車がわからないことが利用者の声にある。どうやったら戻す習慣というか戻しやすいんだらうという話で、市民と一緒に駐輪ステーションを点在させ、ちっちゃい駐輪ステーションを作って、戻しやすいみたいな工夫ができないだらうかっていう言葉を、市民の方からあり、スタッフに任せるのではなく、私達を作るよと。市民と一緒にこの作り続ける会をきっかけに作るなんていうこともやっております。その中で夢パークというのは市民と共に今年も活動してきたところが大きいと思います。

もう一つ夢パークの現状報告ということですが、前回視察が結構多いというお話をさせていただきましたが、スタッフが調べたところ、上半期だけで視察の希望者数が 134 件、実際に実施できたのが 100 件ありました。下半期まで行くと 200 件近くになり、希望はそれ以上になりそうです。行政の志水さんからよくお問い合わせいただきますが、なかなか日程が合いません。仕方がないのですが、やはり 2022 年の映画とドキュメント 72 時間以降、相当視察等の連絡が増えているというのが現状です。そこに対してもまた、今年度もやりましたけども来年度も月 1 回、合同見学会のような形で小さい単位で、できるだけ日にちをこちら側に合わせて来て下さいみたいなことで、来年度の地域でやっていこうかなと思っています。

いくつかご報告の中でいうと、夢パークを視察等で見て、川崎市以外の場所で実現しましたという話が何件か入ってきており、この 4 月に長野で“ササランド”というのも夢パークを模

して作りましたとか、大阪からも大きな国有地など大きな公園の一部に、夢パークを参考に
して、こんな感じで作りましたというお手紙いただいたりしています。千葉からも、既に作って
いた運営団体でここをサンプルにして作った浦安の広場なんですけど、改めて見させてくださいと
来たりなど、子どもの遊び場が全国に広がっているというのも実際にあるのかなというのが今
年度とあわせてのご報告というところになります。

来年度の計画では、引き続き基本的な子どもを真ん中にした、そして市民と共に歩む夢
パークをやっていこうと思っています。ここには子どもの育ちとていうのは遊ぶと学ぶときがある
中で、その輪の中で実現していくということを念頭に置きながら更にやっていきたいということと、
2 ページにあります、夢まつり、こどもゆめ横丁、新春イベント、KUJIROCK は、そこは
子どもたちとともに、3 大プラスワンという形でそこを大事にしながら、子どもたちと共に進めて
いきたいと思っています。やはり子どもの権利をどれだけ市民に知ってもらおうかが私たちには大
事なことなので、知る、関心を持つ、調べる、参加する体験する環境を共有するみたいな、
いろんなフェーズはありますけれども、色々な形で子どもの権利を市民の方に知っていただく
ということが夢パークの大きな意義なのかなと思っています。

そして 4 ページからは、フリースペースえん、やはりこのもう一つの特徴でありますので引き
続き夢パークの中で活動していきたい。子どもの学校外の学びを大事にして活動していき
たいと思っています。実際にフリースペースえんの登録者が今年度 150 名を超えている状態
です。2 ヶ月に 1 回実施している入園に対する説明会も 1~2 時間で予約が埋まってしまう
相変わらずの状態であります。フリースペースえん自体は年度更新なので、この 3 月、4 月
で年度更新、登録更新ということになりますが、例年という退会というか、次年度更新をし
ないというのが 30~40 名になるのではないかと思いますので、その辺りを念頭に置きながら活
動していきたいと考えています。

工事関係の話ですが、今年度サイクリングロードの設計をしていただいて、来年度末にサ
イクリングロードの工事になろうかと思っています。部分的にぼこぼこになっていて、木の根っこが
下をはって剥がれたりしているので、そこは進めていけるのかと思っています。と同時に、どこの
施設でも課題にはなるのかもしれませんが、夢パークは 20 年経って色々な設備の調子が
悪くなってきており、いま会議をしている部屋は新しく作ったので平気なのですが、他の部屋
の空調の調子が悪いです。何とか無理やり起動させても次に止まったら厳しいと東京ガスや
メンテナンスの方に言われているので、行政の方とも確認しながら進めていけたらいいかなと
思っています。

雑駁ではありますが、夢パークの報告と来年度に向けての状況を話させていただきました。

(番匠副部長)

以上の説明について質問等ございますでしょうか。

(原田委員)

視察者の対応にすごく手間と時間をかけてということですが、できるだけそこに時間と手を割かないようにということで、予めどのような視察のニーズがあるのかということ把握して、例えばポイントを YouTube で情報発信してとか、あるいは、アメリカのスポーツ施設とかスタジアムなんかであります、バーチャルツアー。施設が見たいということであれば、既に Google マップで中を見られるようになっているかどうか分からないんですけども、できるかできないかは別としても、施設を見たいというニーズだけであれば、バーチャルツアーができるので、そこをご覧くださいというスライドでできるかもしれないですし、その辺りの視察の人数把握というのはどのくらいできているのかというと、そこへの対応で、もう少し施設のプロモーションとして位置づければできると思って、そこに対して何かできるようなことがあるのかなのかということについていかがでしょう。

(友兼所長)

ニーズに関しては申し込み時に、夢パークのどこに(プレーパークであったり、不登校であったり)、いろんなグループがあるので、どこが一番関心があるかということ視察の段階では把握させて頂いています。実際結構まちまちというか本当にプレーパークの遊び場として興味があるものと、不登校政策に特化して聞きたいということがあったりするので、そこは個別の団体でやらざるを得ないかなということと、前回も番匠先生だったと思いますが、動画をどこか視察のものをやればいいんじゃないかっていうことで、それを今検討している最中ということと、前回委員の皆さんにも見ていただいたかと思うんですが、20周年で記念動画を作ったのでそれをうまく無料で公開しちゃっていいのかも含めて、今年度きちんと検討する必要があると思っています。バーチャルツアーはまだ全然考えていなかったですけど、それも一つの手なのかなというところがありますね。視察の中でもう1つの大きなニーズは、先ほど他都市でもという話をしましたが、視察の中で僕が担当している部分と、前所長の西野が担当している部分があり、各地方だったり都市の政策に関わるような相談が行政だったり、議員であったりから、うちの都市だったらどうしようみたいなところもあるので、そこは直接来てお話されて、どこか政策のヒントになるところはないかと探されて帰るといったニーズも実際に結構あるかなというふうな感じです。

(原田委員)

既に夢パークを参考にしてできたり、形になったりしたところの連携で繋がるっていう、つまり夢パークのホームページにアクセスしたら夢パークを参考にしてこういう施設が全国にできていますよ、というような繋がりはありますか。

(友兼所長)

その繋がりはやってないですね。

(原田委員)

ホームページのリンクを貼るだけでも、実際それがどうなったのか、形にして、そしたら近くにあるのでそっちに行ってみようってなるかもしれないですし。

(友兼所長)

この何年かで視察に来られた行政議員系の方に、後追いで各自治体の実現したことや参考になったことは何かというのを調査したい、という話が出ていますが、どこまで日常の業務をやりながらできるかというのはあるんですけど、話題になっている部分もあるので、またご報告できたらいいなと考えています。当然うちだけではなくもっと近いところに、うちを参考にしてできたところがあるので、そちらに見に行ってみてくださいというのものもあるかもしれないですし、改めてその辺は検討していきたいと思います。

(原田委員)

議員の後追いなど実際どういうふうに活かされたみたいなのは、この部会というか委員会の学術調査のような形で、何か形にできるようになるかもしれない。なかなかそういう事例がないので、議員さんに直接調査いただくなんて、すごくレアな貴重なケースなのかなと思うので、何かしらの形に残すというのはかなり意味があると思いました。

(友兼所長)

ありがとうございます。

(境委員)

二点いいですか。一つは先ほどこの部屋の空調は問題ないとおっしゃったように、施設が20年経ったということで、おそらく施設の長期修繕計画に関しては、指定管理者であるNPOさんではなくて所有者である川崎市さんの方で長期修繕計画は立案されてそれに基づいて運営されているのだと思うんですけども、その辺はやはり計画と使用者とのギャップというのがありますので、定期的に情報交換をしながら計画の前倒しあるいは先送りみたいなことはなさってらっしゃるのですか。

(友兼所長)

そうですね。先日も空調の調子が悪いということで修繕していただくのと同時に、入れ替えに向けてどれぐらい費用がかかるかというのが修繕会社から来ているので、それを市の方へ送らせていただいたり、指定管理料の中で自分たちでできることとそれ以外のことってというのは、担当の方とお話しています。

(境委員)

ベースのことと指定管理料の中で対応することで分かれているとうことですね。

(友兼所長)

そうですね。屋上の防水塗装もかなり穴が開いて中に水が溜まっている状況なので、それも見積りとしてどの方法でやれば効率的なのかというコストの問題と耐久性と合わせて業者に見てもらい、市からは早めに直しましょうという、できる範囲で直してくださいというようなやり取りをしながらやっています。

(境委員)

もう一点ですが、例えば先ほどおっしゃったように子ども夢パークを視察されてそれをもとに、長野であったり、大阪、千葉であったり、類似の施設を設立なさったり運営されていらっしゃる方々、その方たちの新しく作られた施設であったりあるいはそこでの運営について結構いいフィードバックがあるのかなという気もするのですが、お忙しいからなかなかそこまで連携は難しいのかもしれませんが、何かそのようなことをなさっているのでしょうか。

(友兼所長)

実際にはご報告というか、お知らせをいただいて、そのお返事をしてというぐらいが大枠でその範囲でしかコミュニケーションというか、連携は取れてないのが現状と思います。ただ、場所によっては、理事長の西野が地方講演に行ったときに、先方に呼ばれるとか、近くを通ったから寄ってみて実際どんな感じになったかというのを見て、それを報告してくれたり、パンフを送っていただいてそれを職員間でシェアしたりというようなところが現状でやれていることですかね。

(境委員)

ありがとうございます。

(番匠副部会長)

他にご意見ございますでしょうか。私からも何点か。様々なイベントやられているところですが、もしかしたらもう既にやっているのかもしれませんが、我々の子どもの頃と比べて、そ

の当時なかった文化として今の子どもにはダンスっていうのがあるんですよね。我々って普段からダンスしようっていう認識がないので、そういうイベントのニーズがあるってピンとこないんだけど、やっぱり若い子どもたちと話しているとそれが定着していて、こういう施設があるので子どもたちが積極的にやるとダンスのイベントとかあったりするんですか。

(友兼所長)

現状はダンスのイベントはないですね。

(番匠副部長)

ニーズも上がってこない？

(友兼所長)

そうですね。ただ、ダンスの直接のイベントということではなくて、子ども夢横丁であったり、ゆめパまつりであったりすると必ず登竜門というステージを用意するので、そこで子どもたちが飛び込みで、発表というか、何かやれるように子どもの意見表明じゃないですけど、必ずステージを組むのでそこで踊る子たちっていうのはいます。今回も、横丁のときにキレッキレのダンスを踊る小4ぐらいの女の子が自分で音源をかけて、2ステージやって、すごい人だかりができてたとか、そういうのはありますけど、ダンスだけのイベントはやっていません。

(番匠副部長)

わかりました。他の施設もそうですが企画をするときに、そういうニーズもあるということを意識していかないと、と思いました。

やはり皆さんと同じですが、長野大阪千葉で似たようなものが始まったのは素晴らしいことだと思います。数年前に同じような質問を聞いた時は、たくさんの人が見に来るけれども広がったことはありませんのような話で、広がるといいですね、って話をしたんだけど、それが広がり始めた。

これは広がってよかったねっていうだけではなく、ここから分派していったんだという記録をちゃんと残した方が本当にいいと思います。川崎市にとっていいと。先ほどホームページにこういうところが新しくできましたって、僕らが作ったわけじゃないけど、許可を得てリンクを貼るであるとか、明確にここを参考にしたと表明しているところがあるのであれば、例えば年に1回ぐらいZOOMでもいいので、何とか連絡会とか、意見交換するということをできれば。なんでもかんでも夢パークにやってくださいっていうと大変なので、例えば川崎市主催でやるとか、子どもの権利系の集まりがあるのでそこでやるとか、ちょっとその川崎からスタートしたこういう活動が広がってきたことをちゃんとPRするような場を設けることかなというふうに思いました。

あと視察が多いという話は前回も言いましたけど、バーチャルがいいかどうかわかんないですけど、重要なのは所長や西野さんの言葉を聞きたいということであると思うんですね。スタッフと子どもの雰囲気を実際の様子で見たいという。今日も昼なので子どもがいれば後で視察のときに見られたらいいなと思うわけですけど、そういうのをやっぱビデオにして、まずはこれを見てください。満足いかない場合は来てください。そのときは有料です、というような形にすれば、何らかのやりやすさがあるのかなというふうに思います。その辺りも今後工夫していただければなと思います。

それでは八ヶ岳自然の家から名取所長お願いします。

○川崎市八ヶ岳少年自然の家

(名取所長)

利用状況の方ですが、12月までとなっています。昨年度も12月までになっています。

コロナウイルスの関連ですが、ずいぶん落ち着いてきたということころで、夏前に客足が伸びてきた。中では夏場はキャンセルが見受けられたが、冬季になりましては大きなキャンセルはないのですがインフルエンザとコロナウイルスが流行っていますので人数減が見られる感じです。利用人数に関しましてはずいぶん戻ってきたという感じ。数が30年と比べてまだそこまでいってないのですが、ずいぶん戻ってきた。青少年団体の戻りが大きくなってきたということが今回の状況となります。

11月ですが川崎市の受水ポンプの入れ替え工事に伴い、水漏れがあったので独自工事を行いましたので11月途中～12月前半にかけて休館にしていたので、その分の見込みは少し低かった。12月28日～1月4日までは申し込みが多いことから、受け入れを実施しました。

次の自然教室ですが、夏季の自然教室は無事に終了しております。冬季は1月11日からは中学校の受け入れを開始しておりますが今のところ大きな事故などはございません。実は昨日の雪で学校の入れ替えの日になっていたため宮前平中学校は交通状況が悪い中ということで3月に延期となりました。冬季の自然教室の食事については、今まで自然の家に立ち寄り食事を取ってスキー場へと予定でいしましたが、バスの中で食事がとれるようになったので直接スキー場に行けることになり、講習も余分な時間をかけずにスタートできる形に戻っております。

続いて主催事業ですが、ふじみ星空観察会とふれあい星空観察会で、昨年度は人数制限を行っていましたが、今年度からは制限を少し緩和したことに伴い順調になっています。秋に入笠山で雲海が見られるので計画していましたが、お風呂と給水ポンプの工事の時期が重なったため中止となりました。八ヶ岳自然観察会は希望があれば、所内の自然観察を随時実施できます。

次に自然の家の運営についてです。施設のところの修繕は計画に伴い順次実施しています。土石流の警戒エリア等もありますので、そちらも講習会をしっかりとやっています。随時安全委員会を開き、話し合いをして管理体制とかシステムやプログラムの対応を行っています。施設内の危険木が山の中は多いので随時枝払いをしたり伐採したりしています。活動プログラムも随時更新しております。

施設の方は老朽化に伴い改修工事が多くなっている。年度で計画を立てながら行っているが緊急の工事が多くなっているため、先送りしながら順番をつけながら行っております。雨漏り、消火栓、水回り関係、を随時行いながら安全を考慮しながら工事しています。

その他の管理、今年度せせらぎの森あたりのさくらが古くなって一気に枯れだして、秋に17本の伐採をしました。また周りの木も剪定もしている。17本も切ってしまったので場所が広がってきているので植栽の方も進めて、また新しい木の更新を図っていきたい。冬季になりましたので、落ち葉の片づけを毎日行っており、そのあとは凍結の防止や除雪作業が随時入ってきます。

その他ですが、今年度もかわさき市民祭りに参加して自然の家のPR、クラフトやパンフレット配布を行っています。ホームページやSNSを使いました情報誌も随時更新しています。町内になります。観光施設等でパンフレット等を配布して今年度も個数を増やしながら実施しています。

新型コロナウイルスの対応は今までは限定したスタッフが送迎等寄り添うようにしていましたが、全員で交代しながら対応している。施設内のアルコール消毒は継続して実施している。食堂はアクリルパネルにつきましては学校で利用される中でみんな楽しく食べやすいようにパーテーションは廃止しました。

6番につきましては、土砂災害の区域になりますので訓練を実施している。施設が広いので各案内の設置を随時行うようにしている。

課題別学習はパワーポイントを使った学習指導に力を入れている。物価上昇により食糧費がすごくあがっています。メニューの内容を変更したり料金改定をお願いしたり、冬季の学校から夏の団体利用、学校につきましては冬季の中学校から料金の改定をさせていただきました。

研修等はこちらの下に書いてある通りです。12月に救急訓練ということで地元の病院と合同で訓練をやっています。

続いて令和6年度の計画ですが、活動プログラムについてはみなさんが利用しやすいようなプログラムを提供していきたいと思います。自然がたくさんありますので、自然を生かした体験作りの場を作りたいです。所内は草花が非常に豊富なので、そちらの説明を充実させて楽しみの場を提供していきたいと考えています。建物設備の方は今年度もおこないたけれども、それに続きまして優先順位をつけながら修理等行っていきます。費用削減という

ことで、燃料費や水光熱費がずいぶん上がっているのですが、どうやったらそこが減るか、うまい修繕を行ってそれ以降もうまく減らして次の修理につなげるというようなローテーションを作っていきたい。屋外は倒木等を切りましたのでそこに新しく植えて進めていきたいと思っています。

利用促進ですが、小中学校の学校利用がメインとなっており、その青少年団体の利用も毎年来られる団体が戻ってきている。それ以上大きなところは見込めないと思いますが、小さなところからでもということから、市民まつりに参加したり、インターネットで情報提供、毎年利用してくれる社会教育団体へどうですかと当たっていきたいと思います。

安全管理につきましては、土砂災害の場所でもありますけれども、この方に力を入れながら、活動中にもケガがないようにということにも力を入れていきたいと考えています。

職員教育の方は下に書いてあるような講習会等を随時行ってまいります。以上となります。

(番匠副部長)

はい、ありがとうございます。

以上のご説明について質問等ございますでしょうか。

(境委員)

二つお願いします。一つは能登半島地震。長野はあまり遠くないですけど影響があったかどうか一点。もう一つは最近ニュースで見るシーンですけれども、熊を中心とした獣害の情報が、ハイキングコース等を含めて近隣で何かなかったでしょうかを伺いたいと思います。

(名取所長)

まずは地震についてですが、八ヶ岳の方はおかげさまで何事もなく安全な状況で施設等回りましたが大丈夫でした。

(境委員)

震度はどのくらいありましたか。

(名取所長)

震度3、4とかですね。八ヶ岳の方はちょうど断層の真ん中で割れている形になって、揺れた辺が入笠山と少し違ったりしていたので、町は役場の方で情報がでるのですが、八ヶ岳はそこまで感じないというところでした。ただ、1月1日だったのでその後の利用者の出足というか出控えが少し見られる影響はあるかと思っています。熊のことですが、八ヶ岳は基本、熊はいなくて、鹿がたくさんいます。小学生が入笠山の熊の生息域ところに毎年来ますが、入

笠山はたくさんの方がいらっしゃるのので登山道までなかなか来ない現状です。食べるものがあるところに行くので沢側というか集落側に。登山道は問題がない状況です。

(番匠副部長)

他にご質問ございますでしょうか。それでは私から1点、この中に光回線インターネットの交換というのがありますが、相当広い施設ですけれども、利用者が使うことができるWi-Fiはどれぐらい整備されているかを教えてください。

(名取所長)

Wi-Fiですが、光回線を事務室周辺に持ってきて、それから全部の棟に地下配線から引くようになっているのですが、ちょっと古い施設で地下配線が見つからないということで、光の配線が現状はできない状態になっています。ケーブルは地下に入っているケーブルから通常の電話機の配線を使って各棟のポイントポイントに置いてあるんですけど、通常の電話ですから、速度は全然取れないですから、それと容量がたくさん入ってきちゃうとパンクしちゃうというのがあるので、各棟につきましてはリーダー室周辺だけ使えるとか、そういった状況になっています。事務所に関しても多くは入れない状況であり、どうやってたくさん入れられるかというところを検討しているのですが、かなり費用が掛かりそうなのでケーブルを回すだけでもかかるので、そこをうまくできないか業者さんをお願いしながらやっているところです。

(番匠副部長)

安全対策に比べれば優先順位は低いのかもかもしれませんが、利用者のニーズとしてはどこでもいつでもネットに繋がるというのは高いものだと思うので、できる範囲で再検討するものをお願いしたいと思います。

それでは続いて黒川青少年野外活動センターから野口所長お願いいたします。

○川崎市黒川青少年野外活動センター

(野口所長)

現在黒川の野外活動センターは下水工事を行っています。一応繋ぐのはできたと報告をもらっていたのですが、2月に繋いだところの道が掘り起こされてしまっている関係もあって、そこをアスファルトに見直す作業と、あともう一つ浄化槽を取り除いて処理をするという作業が残ってまして、2月いっぱいはそのような作業が行われるということで、ご存知の方はわかると思いますが、坂の上がり口の道と駐車場のあたりが結構掘り返してまた埋めてみたい状況になっています。

2月4日から利用ができるようになったのですが、車が入って来れない関係もあり、電車

を使って裏のコンビニ側の階段から上がって来てくださいということで使っていただく感じで、今は回復している状況でございます。最初は全然車が通れないと思ったんですけど、意外に夜になると通れて、朝は始まっちゃうと通れないのですが、そんな状況です。日曜日はダメですよと言っていたのが、土日は工事しないからってなるので、日曜日の利用団体は意外に車が使えています。ちょっと悪く口になりますけど予定通りにいかないんですよね、工事は。大丈夫と言っていたらダメで、ダメと言っていたら大丈夫になって。そういうのがあっていろいろ困った状況があるんですが、最初に言われていた全く駄目ですというよりは使えたりするものですから、その時その時に応じて業者さんに声をかけて対応している状況です。そんな関係もあり、いつも毎年うちのいいところは味噌作りっていうのを2月にやってるのですが、1月中旬に下水が使えない水が出せない関係で麴が作れなくなってしまった関係で、今年初めて味噌づくりを中止しました。利用者さんは来られるのですが、準備が間に合わないので味噌は中止にさせて頂きました。そんな関係で我々に少し余裕ができた。全然余裕がなかったんですけども、職員ももちろん施設の方にいましたので、課題であった、なら枯れの木があり、正面にあるどんぐり山と呼ばれているところで子どもたちが楽しみにしている場所があったんですが、その上の木が枯れた関係で、色々ストップしていたのですが、その木を職員総出で倒しまして山に入れる状況になって、今は遊んでいただけるという状況にしたというところ。まだまだなら枯れがあって処理をしないといけないところがたくさんあるんですが、人が入らないところは倒れたとしても、というのがあり、見て見ぬふりをしている訳ではないのですが、そのまま自然に落ちるのを待って、危ないところから中心にやって、また今後も引き続きやっていきます。だいぶ安全にはなっています。

ここに書いてある主催事業の状況ですが、1月、2月はそんな状況の主催事業となります。2月は子どもたちの森の幼稚園は本日開催日ですが、そういった事業に関してできるものはやっている。主催事業の記録に関してはここに表がありますのでご確認ください。若干、大人のためのチョコレート作りとかいくつかは下水道の関係で中止となった事業があります。

続いて、4ページ以降は指導依頼で私達が指導させていただいたドラム缶ピザやアドベンチャーツアーとかで指導させていただいた団体名をご確認ください。曜日をいれました。

先日、利用できなかった関係もあって、学校の方から我々の方に、南生田中学校でしたか、出張希望で我々が学校の方に準備して、学校のグラウンドを使ってアドベンチャーツアーを協力しながら課題を解決するというプログラムを指導してきたという事例がありました。今後はセンターでもいいのですが、学校のグラウンドが使えれば、もっと広い場所で活動ができたりしますので、そういった出張指導も考えていけたらと思います。

次の6ページをご覧ください。比較対象が古い比較の表をつけ忘れてしまいまして、18年度コロナになる前の年の表を手元に持っているのを読み上げさせていただきます。

利用の延べ人数ですが、この時は1年間で3万人あった年でございます。コロナ前です

ね、そのときは4月1ヶ月が2,238人です。比べると千人ぐらい少ない状況なんですね。5月が2,599、6月が2,567、7月が2,298、8月が2,645、9月が2,726、10月が2,330、11月が2,122、12月が2,948という数字が残っております。

ですから、ぱっと見た感じ、一番多かったコロナ前の時期に比べると、月に千人ぐらいは減ってる状況というふうに思っています。ただ、空いているのかということそんなことはなくてですね、毎日利用者が来ているので、もしかするとこのときは無理していたのかという気がしなくもない。かなりの団体を入れていた。コロナがあって、ある程度無理して入れるようなことはしてないので、こういった形でそれでも2、3団体入ってきている状況があります。あと先ほどの宿泊の話もありましたけれども、やはり宿泊は少なくなっています。うちは食事の提供もないですし、コロナの影響だと思うんですけど、やっぱり利用する団体の責任者の方が何かあったらと考えと、なかなか踏み切れないのでしょう。これは私の考えですがそんな気がしています。

戻りまして、3月に自然体験フェスティバルというイベントをやらせていただきます。いま募集が始まっていて、かなりの数の申し込みをいただいている状況にあります。この自然体験フェスティバルでドラム缶ピザをやったり、BBQを自分たちで焼いてもらったり、ポップコーンをして、うちで人気のコーヒーのプログラムがあり、コーヒーだけはみなさんが入れるのではなくスタッフがいてくれるんですけど、ここだけ食品衛生にひっかかるんです。もちろん毎年保健所で書類を1枚書くと許可がでるのですが、毎回ご迷惑をかけるのと、あと自然大学校で来年度のよつばの指定管理をいただきまして、そういった関係で例えばそういうプログラムといったときに毎回許可をだすのが大変になるので相談したら、営業許可をとってくださいということで、では取りましますとしましたが、黒川のセンターの食堂のキッチンには誰でも入れるので許可は出せませんとなりました。ではプレハブを建てればいいんですかと聞いたら、それなら大丈夫だと。でもプレハブを建てるわけにはいかないのか、キッチンカーならいいのかと聞いたら、いいですと。ではキッチンカー作りますということで、いま3月後半に向けて作っております。そんな作戦をスタッフとボランティアのみなさんに相談しながら営業許可を進めております。

営業許可を取ればいろんなところに行くことができるので、そこでコーヒーを売るだけの話ではなくてクラフトをやったり、いろんな活動をコーヒーとセットにして呼んでもらえると黒川のセンターのことを知っていただく機会になる。それぞれの施設の方にも呼んでもらえれば車に乗ってうかがえるのではないかと思います。あくまでもフェスティバルの時にご迷惑をかけないで、衛生的な中でやりますよということが次につながればと思います。

続いて来年度の計画ですが、2024年度の目標としては回復と新たに開拓ということテーマにやっていきたいと思っています。新たなファンの獲得などをやっていけたらと。

ドラム缶ピザも家族単位でやっていたのを、今年度戻したんですけれども、家族単位でやるんじゃなくて、何家族が協力してピザを作った方が全然雰囲気がいいですよ。そういうふうに戻して行って、もう少し大勢の方に人気があるので参加していただけると。1日100人

超えの体験ができるように準備を進めていきます。スローライフクラブは、センターで季節ごとの作物が取れたり、いろんなことができますので、そういったものの加工などを皆さんと一緒に来年もやっていきたい。登録だけ無料でしていただいて、その人たちに、例えばですがタケノコが出たからメンマ作ります。来週やるから来てください。ちょっと募集期間が短くなっていますが、それでも来られる方にそのタイミングでしかできないので来ていただくような事をしていきたい。

続いては黒川冒険クラブというのを新たにやるんですが、今までは単発ものばかりやってきましたが、年4回同じ子どもたちにプログラムを体験してもらおうというものを展開する。

うちの職員に虫が好きなのがいて、夜に昆虫観察会を、7月に見に行くと夜7時ぐらいからカブトムシが湧いて出てくる。すごいですよ。そんなのを中心に夜の虫読みを。ちょっと乱暴ですが、夜早く寝かせて、朝3時過ぎに起こして行くぞと。3時過ぎだとトラックしか走ってないが、夏は4時になると明るくなるので潜っちゃうんですね。3時に起きてワクワクしませんか。黒川ならできるんです。親が迎えに来られるから。子どもたちがワクワクするような普段やらしてもらえないようなことを、黒川だからこそできるそういった夜の観察会、なかなか他ではできないことをやってあげようというプログラムを準備しています。もちろん今までのプログラムも継続してまいります。受託関係もやってくださいという行動指導依頼に関しても積極的にやってまいります。

最後にキッチンカーですが、呼んでください。行きますよ。先生、大学にも行きますからね。ボーイスカウト・ガールスカウトは難しいですが、ぜひサービス提供させていただきますので、ありがとうございました。

(番匠副部長)

それでは、ただいまの説明について質問等ございますでしょうか。では私の方から、やはり数的なことをお聞きます。3万人いたのが毎月千人ほど減っていると、だから1万人ほど減っているということだと思いますけれども、来年のこの目標ですね。感覚的なものでもいいんですけれども、どれぐらい来年増加するかなというような目標や希望がありましたら教えてくださいませんか。

(野口所長)

目標は25,000人というところでしょうか。25,000人が入るとかなりの利用者数じゃないかなと思うんですが、目標が低いといけないのでそのくらい掲げて頑張っていきたいと思います。

(番匠副部長)

はい、わかりましたありがとうございます。相変わらず非常に創意工夫にとんだ計画で素晴

らしいなと感じております。引き続き頑張っていたければと思います。

それでは、本日委員の皆様から出された意見につきまして、できるだけ今後の運営に反映していただくよう各指定管理者の皆様をお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(番匠副部長)

では次の議題に移ります。その他ということで、各委員の皆さまから気づいた点等ございましたらご意見を伺いたいと思います。質疑応答の時間とさせていただきます何かございましたら、挙手をお願いいたします。

(境委員)

黒川さんの5ページにある11月26日のガールスカウトの利用者の名称ですが、ガールスカウト連絡協議会ではなく、ガールスカウト川崎市連絡会です。訂正をお願いします。

(番匠副部長)

修正をお願いいたします

(境委員)

八ヶ岳さんにお伺いしたいのですが、私達は電車で行ったりする機会が多くございまして、子供たちの訓練という名目で上り坂を歩かせるんですね。高校生だったらいいのですが小学校から中学校になりたての時はきついなと思ったりするんですけども、小淵沢駅への送迎みたいなことをお願いしたりすることはできるのでしょうか。

(名取所長)

はい、送迎はございます。

(境委員)

すみません、うちの子たちが1時間以上歩いているんだらうなという感じだったので。

(番匠副部長)

それではちょっと私の方からも全体の感想といいますか、意見をお話させていただきたいと思います。

まず全体を通して感じたことですが、利用者数というのはだいぶコロナ前に戻ってきたのかなど。ということで非常に良かったかなと思います。今後も引き続きコロナ前のデータを、今回

ちょっと口頭での発言がありましたけど、資料に載せていただくと非常にわかりやすいかなと思っております。

ですので、来年度の計画すべき数的目標があまり計画の中には書かれていないのですけれども、コロナ前程度に人数を戻すというのが一つの数値目標なのかなと思います。ですが安全対策等を考えると黒川のように完全にコロナ前に戻らないということもあるかと思うんですね。それはそれで理由があれば問題ないのかなと思います。できるだけ、この施設のキャパに安全に収まる人数を数値目標としてやっていくと。人数がキャパのギリギリまでと増えたらそれでいいのかというと、そうではないと思うんですね。重要なのは次のミッションとしては、質の向上だと思います。では質って何なのかということを考える必要があると思うのですが、利用者にアンケートをとって安くて泊まれてよかったやったよね、というようなアンケートを集めて質が向上したって言うのかということそうではないと思うんですね。もちろん、利用者の満足度というのも重要ですが、一番重要なのは資料 3 ですかね。各施設の概要が書かれていますが、一番上に設置目的が書かれています。この設置目的をどれだけ達成しているのかということところが、質的評価に繋がるのではないかなと思います。

これは具体的に調査する時期に来ているのではないかな、というふうに感じます。やっぱり川崎ってというのは子どもの権利条例が日本で初めてできたところで、子どもに対しての働きかけの先進的な地域だと思っています。ただ、それはこの前、伊藤副市長をお話したときにも言っていました。制度ができればそれで終わりではない。それを実現するために行動することが重要であるというようなことを、伊藤副市長がおっしゃられていたんですけども、まさにその通りだと思います。施設を作って利用者が増えましたと、たくさんの方が施設のキャパに入らぬらい来てくれましたと。その結果、子供たちにどう影響があったでしょうかということの評価して、多分すごくいい結果があったのは皆さん本当に頑張っておられますので、これを利用した子どもたちはですね、例えば夢パークであつたら居場所になりましたということもあるでしょうし、青少年の家であれば心身の健全な育成に寄与しましたとかあると思いますが、ただ言うだけでなく、例えば利用者にアンケートを取る、利用者の保護者にアンケートを取る、夢パーク等であれば OB・OG にフィードバックの調査をする。そしたら、川崎市が当初挙げていたような目標をこれだけ実施実現していましたよ、というような成果を発信する。そこでその部局の目的というのが達成できたのではないかなと評価できるんですね。非常に大変なことだと思いますし、そういう効果を各団体でやってくださいってただ言うだけでは実現できないと思いますので、この部局部会というのはそういうことを実現するためのものではないかなと僕は考えております。

ということで、なかなか難しいと思いますが、今後そういう質の向上、20 年以上あるという長い時間の施設もありますので、子どもたちのために取り組んできたことを振り返ることが必要かなと思います。

2 点目です。各各事業者の方々が考えていることだと思うんですが、物価の向上、上昇っていうのが凄まじい状況だと思うんですね。皆さんコストカットっていうことで非常に苦勞されていると思いますが、もしご苦勞であるとか、工夫であるとか、何かございましたらご意見をいただきたいのと、川崎市としてはその値上、物価上昇について何らかの対策を考えているのか、考えていないのか状況を教えていただければなと思います。

(友兼所長)

夢パークでは物価はどこにコストがかかるっていうのはあるんですが、一つコストとして抑えられるのは空調がガス空調なんですけれども、夢パークの事務室というのは常に人が多くいるわけではないので(スタッフは外にいることが多い)、むしろ、全体空調よりも足元を温めるような、部屋全体を温める空調を控えて、事務職員の周りを温めるような形に変える、そしてその分、スタッフが外で活動できるように、温かい作業用のウェア(ジャンパー)を使うことで、部屋の中で温まるというのも外にいても温かいとか、そういうことをやったりしています。夏は今年も猛暑で話題になりましたけど、首の周りに冷やすものを使うことで、必要以上の空調システムを使うのではなく体調管理も含めてなんですけれども、そういうような空調のところは結構、あるかなっていうところですかね。

(番匠副部長)

ありがとうございます。

(佐藤所長)

節電節水は大前提で、施設で使用してないところの電気とか水道なんかも極端に。ですから団体にも園庭で遊ぶ時も水道の使用についてはお願いしたりとかっていうのはやっております。

お話がありましたように、全体館の空調を使うときには、団体が利用している間だけで、あとは部屋の空調でという感じです。あとは人件費のこともありますので、確かに事業をやる段階で、ボランティアの方に参加してもらうんですが、安全安心もありますので、必ずニーズと適正人数を考えて募集して参加していただいているわけです。そういうところから、指定管理料の中でやれるような方法を考えている。また物品の購入が結構ありますので、それに関しても、通信で買うのがいいのか、近隣に買いに行った方がいいのかを見ながら購入している形で、何とか物価上昇に対応しながら、それでもやっぱり厳しいなというような感じがします。

今、お話がありましたように、いろんな意味で子どもたちにも節電節水を教えていながらやっていきたいです。

(番匠副部長)

ありがとうございます。

(名取所長)

自然の家ですが、うちの方の施設は宿泊ということで、電気、水道、ガスはかなり使います。まず電気ですが契約を今年度変えました。いろんな契約がある中でいかに安くなるかということで、基本料金が下がると年間の効率がいいものですから、普通の場合は夏が一番使うのですが、自然の家では冬が一番使うので、冬に最大値を出さないように契約の見直し、そして下げたりということをしています。電気の使用料を管理しています。最大値が大きくなった時に、使っていない電気をこちを落として、こちをつけてというようなやり方を考えながらやっています。燃料は長野県の燃料費が一番高いというのがあり、非常に高いです。少年の家は山梨県と長野県のギリギリ境なので、いまは山梨県の業者から入れるようにしています。すごい違うんですね。本来であれば地元にお金を落としたいのですが、燃料費があまりにも大きいので、そういうことも最近は始めています。夏場の空調についてですが、エアコンはないので電気代はかかっていません。ただ地球の温暖化の状況で、夏場の暑さでいよいよ八ヶ岳もエアコンが必要な時期かなというのが見られます。当然ボーイスカウト・ガールスカウトが夏場の暑い時期に来ると、ちょっと暑いよねということがあるかと思いますので、考えないといけない時期に入っています。あと、宿泊施設なので当然食事が出ますが、食材の方の高騰も半端なく、利用者の方には申し訳ないのですが、値上げをさせていただくこととなります。お風呂が3個あり、ろ過器でずっと循環をするんですが、今年度はろ過器の入れ替え工事時にタイマーをつけさせてもらったので、使っていない状態の時に落としてといったところで、燃料費が下がるというようなことがありまして。実際動いたのがまだひと月程度ですが、目に見えるような形で燃料費が少なくなっているので実感できております。

(番匠副部長)

ありがとうございます。

(野口所長)

前にもお話した通り、ガスのストーブが壊れていて薪ストーブを使っており、薪を確保して薪ストーブでやっていますが、1ヶ月間調べたら75,000円だったガス代が5,000円で済んでいたと。だいたい冬場はぼくら月6,7万円分頑張っていると。ボランティアの方々が協力してくれますので、みんなで節約しているかなと。

そして、雨水の貯水タンクを作っておりまして、二つなんですけども、夏場は水撒きとかグラウンドに誇りが立った時にそれを利用して、200リッターが2つなので夏場は結構夕立とか

降るので、それが空になるということはめったにないので、いつもたまっているのに、そういうものを利用して節水しています。そこに SDGs とか貼ってね、目に見える SDGs ですって言うんだけど、何かそういうのも積極的な効果があっているのではないかと思っています。

(番匠副部会長)

ありがとうございます。川崎市から何かありますか。

(上原係長)

物価高騰については昨年度はコロナの影響でかなり高くなってしまっていて、一応全市的に補填をしようと、今年度の状況はまだ確定していませんが、同じような検討は進めている状況ですので追ってご連絡させていただきます。

(番匠副部会長)

ありがとうございます。仕方がないことですが、あまり各団体にしわ寄せが寄り過ぎないようにというのは配慮していただければと思います。

最後に少しだけ、私が国会議員と有識者が集まって教育について話し合う議連の教育立国推進協議会というところのメンバーとして協力しておりまして、そこでも引きこもりと不登校という検討グループができ、昨日も会議をしていたんですが、やはり 30 万人もひきこもりがいるということですね、子どもの第三の居場所みたいなそういう活動っていうのが相当注目され始めているということを感じます。その会議も各地域、各メンバーの成功事例とかご存じでしたら、どんどん要求してくださいみたいな依頼があったんですね。ぜひ、川崎市の活動というのを一つの事例として紹介したいなと思ったりしています。そのときにこんないいことをしてますよっていうだけではなく、その長い期間の活動の結果これだけの改善というか、良い効果がありましたよ、ということが言えれば川崎の活動というのは川崎の子どもだけではなく日本全国の子どもに影響を与えるきっかけになれば、素晴らしいことだと思っていますので、最初の一点目に言ったようにこういう活動を取りまとめるといふようなことを、まずやっていけたらと思いますので、よろしければ皆さんでやりませんかというふうに、個人的には思っております。

他にご意見ございますでしょうか。

(松田委員)

前回ですね、ビデオで限定公開という形で見せいただいたのですが、せっかく作ったものが限定というのはとてももったいなく感じました。川崎市の施設ということで PR するような形で、それぞれ同じような分数でまとめたものを、ホームページとかで公開すればいいのということ

を思っですね、先ほど夢パークさんから原田委員さんのお話がありましたけれども、視察に繋げたらどうかというお話をあつて、それは川崎市から発祥してそういう形で視察で繋がつていくのはいいなつて思いましたけれども、夢パークさんも4団体繋がつているので川崎市ということで、その4つを繋げたものからまた夢パークさんからそういう発信をされて、実際施設ができていふような繋がりがあれば、すごい活動を他の県にも知らせられるし、せつかくこの前に作つていただいたものがそのままというのはもつたないのて活用できないかなというふうに思います。

(上原係長)

動画の方は各施設さんにご協力いただきたい、ありがたかつたのですけれども、限定公開で一回公開を止めた理由としては、いろいろな活動をしている様子を撮つて、各施設に送つていただいたんですが、アプローチの仕方も様々で、動画を撮影する中で、今回は部会の中のメンバーで活動状況を確認するために動画を撮らせてくださいという形で用途を限定して撮つているのがありましたので、そのまま外に載せるというのは厳しいという判断で限定公開してました。

松田委員さんが仰つていただいたのは、イメージとしてはあれを編集して、4つの施設の紹介動画を公表できたらいいんじゃないかというご意見かなと思うのですが、動画の編集を私たち職員がやるというとなかなかノウハウがないものですから、外に出すのか中でやるのか調整が必要だと思つますけど、来年度にできるかどうかという予算は固まつてきているので厳しいところがありますが、動画はありますのでご意見として伺つておきたいと思つます。現実的なところで言うと令和7年度以降の予算で検証する形になるかと思つます。

(番匠副部会長)

質問ですが、前回は全く同じのがあつて、子どもが映つているのでその子どもの権利上、無理だという話なんですけど、これつて予算を組んで予算を使つて作つてもらつたものなんですか？

(上原係長)

そうではないです。編集の費用が掛かるのではないかということです。

(番匠副部会長)

ですよね。今回は限定公開を前提にボランティアで作つてもらつただけど、これは再利用は諦めて一般公開を目指したビデオを作り直さなきゃいけない、それは検討する余地はなく、そうせざるを得ないんだと思うんです、権利上。なので今後一般公開に向けたビデオを

作りましょうという話ですよ。

(上原係長)

そうですね。方法は2つしかないと思いますが、これ私の個人の意見ですが、子どもの顔写真が映っているのであれば、そこは映らないように編集して一般公開に耐えられるようにする。そこは外部のチェックが必要だと思いますけども、チェックを入れて編集して出すのか、もしくは取り直すかですけど、取り直すというのは現実的ではないとされていて、各施設さんにかなり負担をかけてやってもらったところがあるので、再度それを願うかどうかというのは相談が必要かと思っています。そうすると事務局が汗かけばいいのであれば、編集してそれが一般公開に耐えられるものであればそれを公開する形の方が現実的かなと個人的には思ったんですけども、確かに先生が仰る通りで、取り直した方が確実だと思うので、この時点で言えないのは正直なところで、ただ取り直すとなるとどういうふうにするかも含めて仕様みたいなのを固めた方がいい気がするので、例えば次回の会議で。

(松田委員)

撮り直すというような意見ではなくて、いま現在あるもので長時間のものをカットして、4団体が川崎の施設だと分かるように弊害のないところで、場所とか人が映っていても後ろ姿とかで短時間で。

時間をかけて大変だったと思うんですね、施設の方が。短い間にあれだけのものを作成して限定でということを出していますが、その中の差し障りのない部分というか、4団体の景色とか施設を含めて切り取ったものが川崎市の施設だと分かる形でPRできるものがあつたらいいのではないかと。編集の方でやってもらって。改めて作り直すのはすごく大変ですし。

(上原係長)

編集ということですね。わかりました。そうすると事務局が汗をかいてという話になると思うので、庁内で確認させていただいて、次回以降で確認させていただきます。

(番匠副部会長)

はい。他にもし意見がなければ、事務局に進行をお返ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

●閉会

(志水係長)

番匠副部会長ありがとうございました。2点お伝えしたいことがございます。

・次回の青少年教育施設専門部会の予定ですが、昨年度と同様に11月頃に開催をしたいと考えていますので、よろしく願いいたします。順番で行きますと、会場は黒川青少年野外活動センターとなる予定です。なお、具体的な日程につきましては、後日調整の御相談をさせていただきます。

・もう一点ですが、次年度におきましてあらためて委員の委嘱がございます。次年度あらためて御相談させていただきますが、現委員の皆様におきましては可能な限り来季の委員として継続していただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上で、令和5年度第2回青少年教育施設専門部会を閉会させていただきます。

このあと、希望者につきましては夢パークの見学とさせていただきますのでこれで解散とさせていただきます。

本日は、御出席いただきまして、ありがとうございました。